

事前意見に対する町の現状と方針

【意見①】 総合戦略効果検証シートP 4

花いっぱい運動参加大字・自治会団体の割合が達成率 D である。今後、全自治会に5万円（平均）の補助を行い、その後の育苗、運動が展開されているかを写真で報告してもらおう。一斉にできなければ、モデル地区として、数地区ごとに実施していく。

【町の現状と方針】

現状では、当事業に対する補助が必要な団体からの申請を受け付けている。区長・自治会長会において事業への PR は行っているが、今後は地元の総会等で実例を紹介し実施を促す。

【意見②・③】 総合戦略効果検証シートP 6

マイホーム借り上げ制度相談件数が達成率 E である。

今後も同じ取り組みをされるのか？結果は変わらないと思う。借り上げた場合、一定期間固定資産税の優遇措置をすとか、制度を利用しそうな提案を付けてはどうか。個別相談がなかった理由についてニーズや情報発信等どう分析しているか。

【町の現状と方針】

当事業が必要な住民への周知および制度の見直しについて検討を進めていく。

町内において空き家が増加傾向にあることは把握しているが、当制度の需要があるのか再度ニーズを確認する必要があると考えている。

【意見④】 総合戦略効果検証シートP 20

年間新規就農者数について。農業塾の目的が新規就農者数の増加なら対象者が間違っているし、終了後すぐに営農しない方が多いとの分析だが、確実に将来就農者の卵であり、今後どうフォローするのか。

【町の現状と方針】

農業塾の目的は、広陵町内で「業」として農に携わろうとする方に対して栽培技術や販売技術を伝習するものである。塾生は新規就農希望者だけでなく、既存の農家や小規

模であっても農産物の生産販売を行おうとする方など、様々な層を対象としている。修了生の中にも、地域の直売所に出荷し、活発な生産活動を行っている者が多数存在する。

農地を所有されていない（取得の目処が立っていない）塾生に対しては農地の斡旋等に今後、より力を入れていく必要がある。

【意見⑤】 総合戦略効果検証シートP24

農業の振興について。農業塾の開講—塾生が就農につながっていないのでは。農福連携の取り組みは考えているか。

【町の現状と方針】

塾生のうち、新規就農者は累計3名と限られているが、新規就農以外で、農業法人への参加、健康農業（けんぎょうのうぎょう）への参加などでの農業に参加されている方や、もともと農地を所有されている塾生が多い。また、現在の塾生の中には新規就農を希望する者も複数名存在する。

農福連携についても、町内の農業法人で取り組まれているほか、町としても前向きに検討している。

【意見⑥】 総合戦略効果検証シートP27

竹取公園を馬見丘陵公園と歩調を合わせてのイベントの開催や人を集める行事を考える。できれば、外国人観光客が来るような常設の行事、観光バスで来場してもらえそうな店舗づくりや食事処（予約制）のPRを進めては？

【町の現状と方針】

平成29年2月に、奈良県とまちづくりに関する包括連携協定を締結し、竹取公園と馬見丘陵公園を一体化した構想を考えている。現在はまちづくり基本計画の策定に向け進めているところであり、インバウンドに限らず多くの観光客を集客できる観光施設の整備について進めているところである。

【意見⑦】 総合戦略効果検証シートP31・32

住民との協働のまちづくりについて

活動を始めたいが、何から始めるのか分からない方、またさらに活動を充実させたい団体などの、育成の進め方に取り組んでいるか。地域担当職員の活用、住民懇談会での意見をどう反映されたのか等、返答はしているか。開きっぱなしになっていないか。

【町の現状と方針】

活動を始めたい方については、町においてそのニーズを把握する方法がないのが現状である。一方、活動を充実させたい団体等については、今年度創設した補助制度「広陵町協働のまちづくり提案事業補助金」について、周知を行い応募団体に対して審査会を開催したところである。

また、住民懇談会については、開催後、各区・自治会からの要望・意見に対して各担当課から回答してもらい、区長・自治会長へ連絡している。

【意見⑧】 総論

教育・子育てに手厚い町だとの評価を得ていると思う。投資だけで終わらないように、住み続けていただけるようにするために、ただ事業を実施するのではなく、人を育てる人材育成が必要だと思っている。広陵町には経験や力を持っておられる人材がまだまだいると思う。そういう人を見つけ出し、コミュニティを作っていきたいと思っています。

【町の現状と方針】

町としても人材育成は重要と考えている。住民主体の団体・コミュニティが立ち上がるよう、町として支援するよう努めていく。